

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和06年08月30日

計画の名称	八峰町土砂災害に強いまちづくり												
計画の期間	令和04年度 ~ 令和04年度 (1年間)								重点配分対象の該当	○			
交付対象	八峰町												
計画の目標	<p>八峰町岩館地区は、町の最北部に位置し、約310世帯、680人が生活していて、約半数は65歳以上の高齢者である。集落内は南北方向に国道101号と町道2路線が山沿い、集落中心部、海岸沿いに縦断しており、沿線に住宅が連単している。また、町中心部と地区を接続する路線は国道101号のみである。このような地勢により、大規模災害により国道に被害が発生し通行が遮断されれば、地区全体が孤立することが想定され、大規模停電が同時に発生した場合住民生活に重大な影響を及ぼすことになる。このような事態に備え、地区住民から停電を含む大規模災害に対応した避難所の整備要望が高まっていた。新たな避難施設の整備場所は、津波の被害を回避しつつ、高齢者の「避難しやすさ」に配慮する必要がある。現在の避難所である「岩館生活改善センター」は、標高約23mに高台にあり、南側に十分な面積の空き地(町有地)があるため、ここに新たな避難施設を整備する。また、新たな避難施設は、岩館生活改善センターに代わる地区コミュニティ施設とする。備えるべき機能は大規模停電に対し長時間の避難を可能とする必要があるが、整備後の維持管理が比較的容易であることから大容量蓄電池による給電設備を整備した「防災コミュニティセンター」とする。</p> <p>以上のようなハードの整備を行い、総合的な防災設備を構築することで、八峰町岩館地区を「土砂災害に強いまち」とするものである。</p>												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	75	A	75	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (R3当初)	中間目標値	最終目標値 (R4末)
1	避難所整備により、地区の津波による要避難住民のカバー率を93%から100%へ増加させる。 地区内公共施設(避難所)の要避難住民カバー率 施設収容可能住民数 / 津波に対する要避難者のうち避難所を必要とする住民数	93%	%	100%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	○	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---	-----------	---------------

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												R04	R05	R06	R07	R08			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
市街地整備事業	A13-001	都市防災	一般	八峰町	直接	八峰町	-	-	都市防災総合推進事業	岩館地区防災コミュニティセンター新築1棟 A=320㎡	八峰町						75	-	
											小計						75		
											合計						75		

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
八峰町担当課において、事業実施状況・指標の達成状況の確認及び評価を行った。	令和6年度
	公表の方法
	八峰町のホームページで公表
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	「岩館地区防災コミュニティセンター」の完成により、高齢者の「避難しやすさ」への配慮のほか、老朽化した施設の更新（バリアフリー化も含む）及び近接法面保護工事を行ったことにより、安全・安心な避難所の提供が可能となった。また、大規模災害（停電）等の長時間の避難が必要な場合でも、大容量蓄電池や電気自動車からの給電により快適な避難所生活の提供も可能となった。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	災害時は避難所として活用される施設であるが、通常時は自治会のコミュニティセンターとして地域のにぎわい創出に大きく貢献している。現時点では周辺の擁壁保護工事や外構工事を控えているため実施には至っていないが、地元住民団体による盆踊り等の祭事も、今後同センター敷地内で開催予定となっており、防災面を含め、岩館地区の拠点施設となることができた。
特記事項（今後の方針等）	
施設の機器等、日常点検・定期点検を確実に行之、適切な維持管理に努める。また、自治会住民や町防災担当と連携し、通常の避難訓練に加え、自主的な避難所開設訓練等も実施したいと考えている。	

